



# 2003年 新春号

秋のオープンを待つ「なんばパークス」  
(仮称)難波再開発A-1地区



年頭のあいさつ  
「J S C A 関西／  
この1年を振り返って」  
支部長 株式会社大林組  
八木貞樹



年頭のあいさつ  
副支部長  
株式会社日建設計  
斎藤幸雄



年頭のあいさつ  
副支部長  
株式会社イオリ建築設計事務所  
谷尾俊弘

新年おめでとう御座います。昨年は相変わらず建設業界を取り巻く経済環境は厳しく、景気が一向に回復する兆しが見えません。明るい話題としてはワールドカップで日本が悲願の決勝進出を決めた事、ノーベル賞のダブル受賞、とりわけ我技術者の希望の星、田中耕一氏の受賞が話題になりました。今年こそ景気に関して、真っ暗なトンネルの向こうにわずかでも光りが見えるようになって欲しいと切実に感じます。

J S C A に関してですが近年は財務が若干悪化し、数年後には抜本的な財政改善の施策が必要となります。しかし、関西支部に関しては、過去の役員の努力もあり、健全財政を維持できているので、その間に今以上の活性化を図るために、事業委員会に諮問し、幾つかの施策を提案して頂きました。その中で今後の重要な事業として、阪神淡路大震災後10年目を区切りとした事業を今から企画・準備し、関西支部発の情報発信を行なう計画です。準備委員会委員は幅広く募り、企画準備の議論を通じて、構造設計者の原点を探りたいと考えています。

あけましておめでとうございます。  
今年も日本経済はデフレが進行し、活力が失われてゆくのでしょうか。莫大な国の借金を考えると、もはや税金投入による経済の活性化は限界にきているように思えます。このまま経済は低迷を続けるのか、誰にも予測ができない状況となっています。一方、政治の世界でも小泉改革が抵抗勢力の台頭により、急ブレーキがかかりつつある状態にあります。さて、建設業界に目を転じると、もっときびしい現実に直面することになります。もうまたなしの状況です。そして J S C A もまたしかりでしょう。J S C A 会員予備軍の若い人たちにとって、J S C A は入会することによるメリットは何も見出せない、魅力のない団体と映っているようで、真摯に受け止める必要があります。

この他、財政状態の悪化とあわせると、このままではじり貧となるのは火を見るより明らかです。今年は久しぶりに役員の選出が、選挙により行われることになっているので、多数が立候補し公明盛大に行われることにより、活性化につながることを期待したいものです。

新年明けましておめでとう御座います。  
今年の干支は未です。未といえば十二支で8番目にあたります。暦によれば「終りにして始め」(夜明け)を表す星とあります。

昨年の日本経済は最悪でありました。中でも関西の落込みは深刻なものがあり「大恐慌となつても不思議はない」ほどでした。期待されたユニバーサル・スタジオ・ジャパンの経済効果も工業用飲料水問題もあり今一つでした。

阪神タイガースの頑張りも竜頭蛇尾に終り、日本で初めて開催されたワールドサッカーも全国の老若男女が共に一喜一憂した割には、良いところは韓国に持つていかれ、プロ野球日本シリーズに至つては関東チーム同士といった接戦であった。更に大阪人が期待した「2008年のオリンピックは大阪で」も北京に完敗といった体たらく。失業率が7%を超えるのも無理からぬことである。

さて、今年は小泉内閣の正念場と言ってよい。日本国民は我慢、痛みの限界が来ており、これ以上経済が低迷することは許されない。安心と希望を取戻し、景気の回復を実感出来る世の中にしてもらいたいものです。

「羊を亡くして牢を補う」ことのない年でありますよう。

# 特集「開かれた関西支部をめざして」

## —支部会員の声を直接聞く—

“関西支部とりわけ支部広報委員会は何を求めるか”について、会員の皆さんのご意見をアンケートにより伺いました。ここでは、アンケート結果を中心に会員の声を紹介いたします。広報委員会では当結果を真摯に受け止めて、“Structure Kansai”の編集、関西特有の情報発信等の広報活動に役立てていきたいと考えています。

またアンケートでは、ビッグプロジェクトの設計・施工や最先端施工技術の紹介だけでなく、日常の中小建物の設計・施工に関する情報への要望も数多く寄せられました。その活動事例として、しかも支部間の横断的活動である“スマーモルストラクチャー研究会(SSWG)”の活動を、アンケート結果について紹介いたします。

### 1. 関西支部会員の居住地と勤務先

JSCA関西支部名簿(2002年10月現在)によると、支部会員総数は595名であり、皆さんの居住地と勤務先の所在地・職種について調査いたしました。特に、職種については詳細に調査したのではなく、勤務先の名称から判断したものです。

また、関西支部会員とは、勤務先の所在地が関西地区の方です。ただし、関西地区以外に単身赴任されても、連絡先が関西地区であれば、関西支部の所属となっています。

#### ①居住地と勤務地 [表1-1, 図1-1]

- ・大阪府に住まれている方は全体の45%を占め、兵庫県を加えると、全体の70%を超えております。
- ・支部会員のうち、80%以上の方は大阪府内で勤務している。大阪府在住の方はほとんどが同府内で勤務している。奈良県・兵庫県に住まれている方は大阪府勤務の割合がそれぞれ81%、74%と高くなっているのに対し、京都府・滋賀県・和歌山県に住まれている方は同府県内勤務の割合が48%~75%と高くなっています。

#### ②勤務先の職種 [表1-2, 図1-2]

- ・勤務先の85%以上は設計事務所と建設会社で占め、設計事務所勤務の方の割合は概ね60%になっている。
- ・設計事務所勤務のうち、自営されている（設計事務所を経営なさっていると思われる方で、その判断基準は表1-2の注1による。）と思われる方の割合は55%に及んでいる。京都府・滋賀県・和歌山県では60%を超え、大阪府が60%となっている。

逆に、大阪府勤務の多い奈良県・兵庫県は50%以下となっている。

### 2. アンケート調査の実施

関西支部広報委員会では、支部広報活動に関する会員の意見を集めるべく、アンケート調査を実施いたしました。今回は会員の中から、自営されていると思われる方を中心抽出させていただき、業務に関する情報を中心に、ご意見を伺いました。

アンケートは、関西支部の10%強に当たる63名の方に発信し、忙しいなかを回答下さった方には心から御礼申し上げます。回答は21名で、京都府・兵庫県の方の回答率が高く、奈良県・滋賀県も30%以上の回答がありました。大阪府の方の回答率が低調でした。特に、大阪から時間的に一番遠い和歌山県の方のご意見を伺えなかったのは残念でした。アンケート結果は本誌にて発表させていただくとともに、関係委員会等に提出させていただきます。

### 3. アンケート結果

#### ①JSCA以外の所属団体 [表2-1]

80%以上の方がJSCA以外の団体にも参加されている。建築士会には半数以上の方が所属されており、以下、日本建築学会、建築事務所協会および関西建築構造設計事務所協会に所属する方が多い。他の所属機関としては、日本建築協会、建築家協会、日本建築防災協会、日本溶接協会があった。

#### ②JSCAに入会した動機 [表2-2]

当会に入会された動機としては、知人からの勧めが多く、以下、構造家懇談会から

の継続、情報収集の場を求めての順になっている。会社からの指示および広報誌を見ての入会の方も若干名いらっしゃった。

#### ③JSCAの位置づけ [表2-3]

当会の位置づけとしては、情報収集の場としてが圧倒的に多く、以下、自己研鑽の場、人との繋がりを密にする場が続いている。

#### ④JSCA地域活動への参加 [表2-4]

半数以上の方が地域活動として京滋会・兵庫会・奈良会へ参加されており、特に地域活動のある京都府・滋賀県・兵庫県・奈良県に限定すると、70%以上の方が参加されている。一人ではあるが、“参加したいが、地域活動の場がない”との回答があった。

#### ⑤建築構造に関する技術情報の入手先 [表2-5]

情報の入手先としては、日本建築学会の出版書籍、日本建築センターの出版図書、当会の本部誌が多く、以下、日本建築センター主催の講習会、日本建築学会主催の講習会および建築関係の雑誌・一般書籍が続いている。媒体としては、講習会・研修会よりも書籍の方が若干多かった。関西支部広報誌、JSCA主催の講習会・研修会についても、30%以上の方が活用されている。

その他の回答として、パソコン活用（建築行政情報センター等のホームページ、メーリングリスト）によって、技術情報の入手をされている方が若干名いらっしゃった。

#### ⑥JSCA技術委員会への希望 [表2-6]

技術委員会へ希望する項目としては、技術資料のまとめと公開、設計手法の紹介という意見が圧倒的に多かった。参加型の勉強

表1-1 JSCA関西支部会員の勤務地調査

勤務地\居住地	大阪	兵庫	京都	奈良	滋賀	和歌山	近畿外	計	備考
大阪	243	103	27	52	6	1	20	452	
兵庫	4	36	0	0	1	0	0	41	
京都	5	0	27	0	4	0	0	36	
奈良	0	0	0	11	0	0	0	11	
滋賀	0	0	0	0	10	0	0	10	
和歌山	0	0	0	0	0	3	0	3	
近畿外	0	0	0	1	0	0	0	1	
不明	18	13	6	1	3	0	0	41	
計	270	152	60	65	24	4	20	595	

注1) 不明は勤務地が未記入

2) 近畿外は三重県在住(関西地区勤務)の3名を含む。(以下同様)

表1-2 JSCA関西支部会員の勤務先(職種)調査

職種\居住地	大阪	兵庫	京都	奈良	滋賀	和歌山	近畿外	計	備考
設計事務所 (自営)	161 (96)	78 (39)	32 (22)	43 (18)	14 (9)	3 (2)	7 (1)	338 (187)	エンジニアリング、研究所を含む
建築会社	68	41	8	19	3	1	11	151	
教職	15	9	16	1	5	0	1	47	
役所等	1	4	3	0	0	0	0	8	日本建築総合試験所、民間確認検査機構を含む
メーカー	4	7	0	1	0	0	0	12	鉄鋼業・建材メーカーとその関連商事会社を含む
その他	4	4	0	0	0	0	1	9	
不明	17	9	1	1	2	0	0	30	
計	270	152	60	65	24	4	20	595	

注1) 自営とは設計事務所を経営(自営)されていると思われる人を指す

・役職が代表取締役、所長、主宰等と記載ある人

・居住地と勤務先の住所が同じ人

2) 不明は勤務先名称が未記入



関西支部広報誌に対する意見として、下記の5項目があつた。

- ・いろんな事柄が記載されていて、おもしろく拝読しています。
- ・現在の方針で結構あると思います。
- ・各分科会の開催予定日と内容、活動テーマ等（連絡先共）
- ・実務的な解決策の情報の発信はできませんか？
- ・企業のPRに近い作品紹介・自慢話はなくせませんか？

#### ⑨JSCA関西主催行事【表2-9】

主催行事のうち参加率の高いのは、研修会が67%、見学会が50%程度で、つづいて通常総会、定例研究会が20%程度であった。親睦会への参加は少なく、10%を超えるにすぎない。その他の意見として、下記の4項目があつた。

- ・地元での行事もあり、あまり参加できませんが、今まで満足しています。
- ・見学会を増やしていただくよう希望します。
- ・研修会等の開催を神戸でもお願いしたい。
- ・木造住宅の新築や補強の見学会を希望します。

#### ⑩JSCA関西支部への希望

“当支部に何を望むか”という問い合わせに対して、下記の回答がありました。〔原文のまま、記載〕

- ・今まで満足しています。
- ・各分科会の配布資料の入手方法について明らかにしてもらいたい。
- ・現役時代は技術委員会にも参加しており

ました。昨年末に退職し、事務所を開設しております。今後も構造関係の最新情報は知りたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

- ・ドームや制振といった技術よりも、例えばSRCの接合部、柱脚部が教科書どおりで設計可能か、大阪ではまじめにやると液状化してしまう地盤が多いが中小建物でそこまで対応して設計できるかとか、建方時は仮締めボルトを使用しているか等、理屈と現実の差を実務者が対応しているかを探る方が平均的構造レベルが上がり、よっぽど世の中の役に立つのではないでしょうか。
- ・一般的な構造設計者に助言をいただきたい。
- ・大規模な建物ばかりではなく、小規模建物の現状の紹介等。

#### ⑪JSCA関西支部広報委員会への希望

“当広報委員会に何を望むか”という問い合わせに対して、下記の回答があった。〔原文のまま、記載〕

- ・今まで満足しています。
- ・JSCA及び建築構造士の建築業界関係の人の認知度が現在以上に上がるためのPR活動。

#### 4. 会員の声

JSCA全体へのご意見として、アンケートとは別紙にていただきましたので、紹介いたします。

JSCA御中

宮井建築構造研究所 宮井 清忠

JSCA関西支部に対する希望としてではなく、JSCA全体に対する希望として述べさせていただきます。

現在のJSCAの体質は設計重視で他の部門の影が薄く、すなわち“日本建築構造技術者協会”というよりも、“日本建築構造設計者協会”であり、“Japan Architectural Structural Consultants Association”から“Japan Architectural Structural Designer Association”になってしまっているように思われます。

「設計」は勿論大切ですが、それは「技術」全体から見ればあくまでその一部門にすぎないので、設計以外の部門にも範囲を拡げ、「研究」「開発」「調査」「施工法」

「施工機器」「各種の新材料」などについての技術情報の提供にも「設計」と同程度のウェイトを置いていただきたい。例えば

“他の産業分野で研究・開発され、建築にも応用できそうな新技術・新材料・新工法などの紹介”や、また“省力化や工期短縮に役立つ新技術”“環境を重視した新技術”の紹介などの記事を増やしていただけないでしょうか。

以上のとおり、「設計者協会」であれば、現行法規と基準の中でいかに合理的な設計を行うかということで足りますが、「技術者協会」となればさらにそれを超えて、今直ちには実用できなくても将来使えるようになるかもしれない、未来指向型の新技術の探求が望まれるのではないかでしょうか。

表2-8.3 関西支部広報誌 Structure Kansai の過去3年間の特集記事で良かったと思われる記事

項目	大阪 [3]	兵庫 [6]	京都 [5]	奈良 [3]	滋賀 [3]	和歌山 [0]	三重 [1]	計 [21]	備 考
新しい技術情報の修得	3	4	3	1	2	0	1	14	
設計に役立つ資料の配布	1	5	3	3	3	0	1	16	
構造士のポイントの取得	0	0	0	0	0	0	1	1	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	

表2-8.1 関西支部広報誌 Structure Kansai について

項目	居住地 [回答数]	大阪 [3]	兵庫 [6]	京都 [5]	奈良 [3]	滋賀 [3]	和歌山 [0]	三重 [1]	計 [21]	備 考
ほぼ全ての記事を読む	2	1	0	1	2	0	1	7		
興味のある記事のみを読む	1	4	3	2	1	0	0	11		
ほとんど読まない	0	1	1	0	0	0	0	2		
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

表2-8.2 関西支部広報誌 Structure Kansai に望む記事

項目	居住地 [回答数]	大阪 [3]	兵庫 [6]	京都 [5]	奈良 [3]	滋賀 [3]	和歌山 [0]	三重 [1]	計 [21]	備 考
建物紹介	2	2	3	1	1	0	1	10		
新工法・新技术の紹介	3	4	3	1	3	0	1	15		
見学会報告	1	0	0	1	0	0	1	3		
研究会報告	1	1	1	1	2	0	1	7		
その他	0	2	0	0	0	0	0	2	本文参照のこと	

# もうひとつのJSCAー支部間を横断する技術者のネットワーク

— 計画部会 スモールストラクチャー（SSWG）の活動 —



(有) 桃李舎  
樹田洋子

## 1. SSWGの紹介

本誌のページを飾るビッグプロジェクトや最先端の施工技術を紹介する見学会。どのような立場の技術者であれ、どのようなプロジェクトに参加することは稀で、日常は中小規模の建物を、使える技術の範囲で創意工夫しながら設計している。世の中の大半を占める身近な小さな建物にアイデアをこらし、安全で自由度の高い空間を社会に提供することで、我々の役割が具体的に伝えられ、構造技術者の職能と地位が認知されるようになるのだと思っている。そのような設計を実現するには、識者やメーカーから技術資料を入手し、行政の許可を取りつけ、よい施工者や製作者を探すなど、実に煩雑な作業が必要で、構造技術者が孤立していくは問題解決や活動に限界がある。昨年の春、オーク構造設計の新谷眞人氏からの呼びかけで、身近な中小規模（延べ床面積10m<sup>2</sup>～2000m<sup>2</sup>）の建物の構造設計における設計手法や構造技術を展開させることをメインテーマにしたSSWGが立ち上がり、公募に全国から賛同者が集まつた。これはその活動報告である。

## 2. 活動の方法

- ①各人がテーマをもつ。
  - ②類似のテーマで2～3人のチームを作る。
  - ③各人が自主的に自分のテーマに取り組み、チーム内で互いに助け合う。
  - ④1.5ヶ月に1回全員で集まり意見交換と作業の進捗状況を確認する。出張の負担を減らすために東京/大阪で交互に開催する。
  - ⑤チームの代表が交代で出張してもよいができるだけ各人が参加する。
  - ⑥その間はメールで報告と意見交換。
  - ⑦メールは同じメンバーをあて先、他のメンバーはC/Cとする。
  - ⑧チーム内の意見交換は義務、他のメンバーの発言は権利とする。
- 現在全体会議は土曜日に大阪と東京の交互で行っている。出張の機会を有効に利用しようと、会議の後にテーマに合う

見学会も企画するようになった。必ず構造担当者、現場であれば現場監督に同行を依頼し質問しながら建物を見学、続く宴席で構造担当者を囲んでざっくばらんに構造談義という運びになる。大勢でぞろぞろ歩く見学会とは異なり、人柄やその人の日頃の設計活動の姿勢まで伺える少人数で親密な交流で得られるものは、東京↔大阪の往復の新幹線代を代償として余りある。話がそれなので、各チームのテーマとメンバーの所在地を記す。

## 3. テーマ

### ●A. 現場チーム

対馬恵三・田嶋成幸（東京）／現場でよく発生する問題とその対処法を収集し、Q&A形式でまとめる。

### ●B. 解析チーム

片迫幹男（広島）・古田智基（兵庫）／RCの雑壁・耐震壁の設計法の検討。

### ●C. 広報チーム

新谷眞人・横田幸久（東京）・金井喜一（群馬）／JSCA会員から評価の高い、小さな仕事を適切な価格できちつとする工務店、鉄骨製作工場、地質調査会社、メーカーのリストアップ。また現場で生まれる省力化工法などの様々なアイデアを実現化するための連絡手段としてのホームページの作成。それらがメーカーとの新製品開発、販売につながるための方法を模索。

### ●D. 2次部材チーム

岡本憲尚（静岡）／手すりを設計する時の荷重、変形に対する考え方の整理とデザインの可能性の追及。

郷間彰（栃木）・山田泰範（神奈川）・渡邊雅彦（神奈川）／金属折板・デッキプレートなどの二次部材を主要構造材としてデザインする可能性を探る。材料メーカーへのヒアリングや設計例のリサーチ。

### ●E. 基礎チーム

贊田正一・山本貞次・村橋道弘・樹田洋子（大阪）・大氏正嗣（兵庫）／市街地の狭小敷地における基礎の工法の整理。また、軟弱地盤に住宅程度の建物を建てる場合、地盤改良を含む安価で安全な基礎の設計方法を探る。

## 4. メンバーの感想

岡本憲尚（主査）…今回のテーマでは遠方のメンバーが多く集まつた。小さくて

大きなテーマであることが興味を持たれた理由であろう。公募型のWGを提案した狙いの一つである<JSCAの全国的な活性化>が実現したことになる。時間の節約のために、顔を合わせての会議を少なくし、メールを利用した情報交換を目指したが、円滑に機能するには多少の工夫が必要である。意識レベルの高いメンバーによる成果が楽しみである。

新谷眞人（呼びかけ人）…SSWGを呼びかけてから、1年半が経過しようとしている。その間日本経済は一向に良くならず、小さな設計組織は勉強どころではないかも知れないけれど、不思議なことにこのWGのメンバーは皆元気だ。技術者としての職能を高める日々の努力を、社会が認めて仕事を依頼してくるからだと思う。今後のWG活動は、テーマの達成より、問題意識の持続と交換を目的としてもっとルーズでも良いように思う。

## 5. もうひとつのJSCAとは

SSWGの活動を通して、各地に点在する個人の構造技術者を繋ぐ信頼できるネットワークができつつある。もうひとつのJSCAである。東京のメンバーが大阪で仕事をする場合に役所の対応を助けたり、逆に東京の行政指導について教えてもらったり、いい業者を紹介しあつたり。信頼できる人からの口コミの情報はありがたい。チームのテーマに関わらず、設計で困った時にメールで質問を数人に送ればメール上でちょっとした議論ができる。設計に対する基本的なスタンスが合えば、メンバー内の共同設計協力もありうるのではないかと思っている。SSWGのネットワークは、組織に属さない私にとってはほんとうに心強い。現在のJSCAが何を目指しているのか私にはわからない。でもこのSSWGはJSCAという組織が最初に目指そうとしていたものの一つの具現化ではないだろうか。政治も同じだが、大上段に組織に何かを望むより、まず自分がこうありたいと望む形で動くと、何かが変わり始める。そして人々が身近に触れる小さな建物を上質な建築として提供し続けながら、人々に具体的に我々の役割を認識してもらうこと、それが「開かれたJSCA」へのルートだとも思う。8年前の大震災を知るJSCA関西に新設された木構造分科会の木造住宅への取り組みも同じ趣旨による自主的な活動である。

# 見学会報告 新関電ビル(仮称)建設工事



## 現場見学会

(有)エンジニアリング川上  
裏門 弘泰

2002年11月22日、JSCA主催の「新関電ビル(仮称)建設工事」の見学会が開催されました。当日は、大阪市の「中之島西部地区開発構想」に沿った21世紀における大阪の国際化・文化・ビジネスの拠点とした地区に建設されるビルということもあり、見学希望者も多く約70名の参加者で集合場所の現会議室は、ほぼ満員となった。見学に先立ちプロジェクトの概要と構造概要の説明がありましたのでその内容を紹介します。

当プロジェクトは関西電力グループの関電産業株式会社が発注した建物で、規模は地下5階、地上41階、塔屋1階で構造種別は、地下及び地上6階までは主にSRC造、7階以上S造とする最高部高さGL+195.45mの自然エネルギーを積極的に利用しようとして計画された超高層事務所ビルです。構造計画における特徴として、上部構造では地震荷重と風荷重の双方が支配的となり、耐震、耐風、床振動等に対する制震(制振)ディバイスの使用と、基礎(GL-30m)下に設けた場所打ちコンクリート杭です。

8階から38階には、地震時のエネルギー吸収装置として建物外周フレーム短ス

パン梁中央部にはせん断降伏型パネルタイプ、コア部分には軸降伏型プレースタイルの低降伏点鋼( $\sigma_y = 235 \text{ N/mm}^2$ )を用いた履歴型ダンパーを組み込み大地震時のエネルギーを集中的に吸収させ、主架構の損傷を抑える制震ディバイスを採用した。コア部分はプレースタイルとし、万一損傷した場合の取替を考慮し軽量化を図っている。頂部41階に2台の制振装置(HMD)を建物の両側に設置し、強風等による建物の揺れを約1/2に低減しねじれ振動に対しても効果を發揮するようにした。また、高い居住性能を要するフロアの大スパン部分には床制振装置(TMD)を設置し、床振動の低減をはかるようにした。

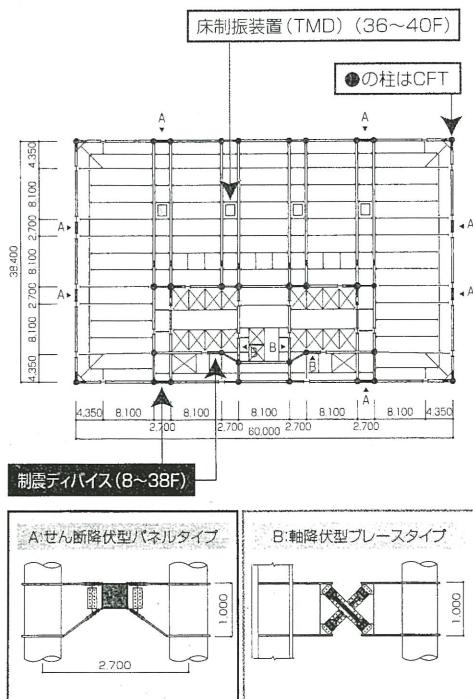
地下は逆打工法を採用し、基礎底からGL-50mまで場所打ちコンクリート杭(本設杭)を用いた。建物基準階の柱割を見て分かるように、外周部分・コア部分において長スパン・短スパンが交互に配置されている。短スパン部分にあたる杭は、高層部高軸力(柱一本あたり最大約2000t)を負担するので2本の構造柱を同時に施工する連壁杭ツインコラム工法の壁杭とした。地下水位は常にGL-3mで地下掘削工事の安全を確保するため、RC山留め壁(東面ホール側は本体利用)を設けた。ジョイント部分からの水の流入は工事中観測されていない。

以上の説明を受けた後、2グループに分かれて現場を見学しました。工事は現在建設途中で地上22階まで鉄骨建方完了、地下5階を掘削中でした。まず地上20階までEVで昇り、そこから階段を使って下に降りながら、制震ディバイス・外装PCa取付け・サッシガラスユニット取付(機械化施工後)を見学した後、もう一度EVにて地下1階まで降りそこから階段にて地下3階に降りて、壁配筋・コンクリートの逆打工法の説明を受けた。その後会議室に戻り活発な質疑応答が行われた後解散となりました。

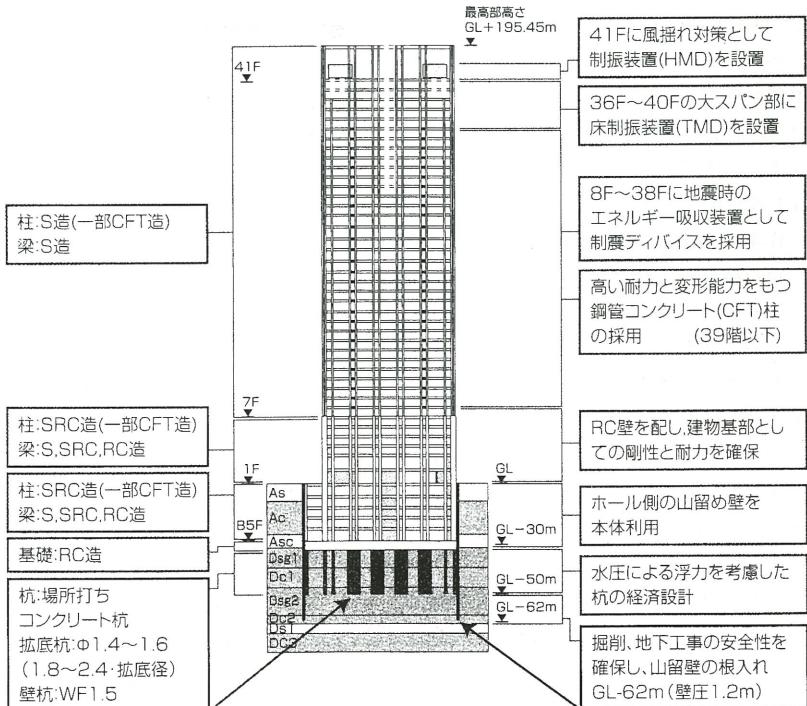
現場は整然としており、入念な施工管理がなされていました。建設時に発生する廃棄物も出来るだけ少なくしている様子が伺えた。今回は建設途中ということもあり、ここで紹介しきれなかった設備面においても様々な工夫がなされており、次代の幕開けを象徴するビルとなるであろうと感じました。個人的には、上層部に設置予定の制振装置(HMD, TMD)が見学できなかつたのが残念であったが機会があればもう一度この現場を見学して顶いたJSCA関係者各位にお礼を申し上げます。

最後になりましたが、今回の見学会の開催にあたり、貴重な時間を割いていただいた、関西電力株式会社、日建設計、竹中・大林・鴻池・浅沼・錢高・奥村共同企業体の皆様並びに当見学会を企画して頂いたJSCA関係者各位にお礼を申し上げます。

## 基準階床梁伏図



## 断面構成



## 国際会議「SEWC2002」 参加報告



株安井建築設計事務所  
山浦晋弘

10月9日から12日にかけて、パシフィコ横浜でSEWC2002(Structural Engineers World Congress 2002)が開催され、筆者も発表者として参加しました。これは4年に一度、世界の構造技術者が一同に集まる国際会議で、前回のサンフランシスコに続き、今回が2回目となります。

会議前日のIcebreaker Receptionには、約100名の技術者、研究者たちが参加し、とくにアジアからの参加者が目立ちました。それぞれが、くつろいだ雰囲気で発表前の交流を図っていました。

10日から2日間は、6題のキーノートスピーチと、Professional Practice、Technicalあわせて96のセッション、380人以上の論文発表が行われました。幸い、4日間とも穏やかな晴天に恵まれ、会場にいるのがもったいないほどでした。見て回った範囲では、それほど盛況といった

雰囲気はないものの、発表後の質疑応答も、参加者たち同士で活発に行われていたように思います。

論文発表の日程をすべて終えた後、夕方からSEWC Partyに参加しました。おぼつかない英会話ながらも、私の発表の時に司会をしてくれたイランの研究者をはじめ、海外の技術者とも話ができる、私にとってはとても有意義な2時間でした。

最終日は、WTCレポートと総括が行われました。WTCレポートでは、Dr. W. Gene Corley氏をはじめ、和田章先生以下、4人のパネラーによる講演がありました。WTCの崩壊原因については、すでに米国政府の調査報告書で明らかにされているようですが、構造物のリダンダンシーやロバストネス、避難経路の確保、火災時の構造物の挙動予測などといった重要な指摘に対して、構造技術者として謙虚に耳を傾けていかなければならぬと考えています。

一方、展示コーナーでは、設計事務所、ゼネコン、メーカーなどの最新技術のほか、今年で13回目を迎えるJSCA賞のこれまでの受賞作品もパネル展示されており、参加者たちは発表の合間にねって、熱心に

見入っていました。

全体的には、前回と比べると、賑やかさや派手さではなく、とくに関西からの参加者が、予想以上に少なかったような印象を受けました。やはり景気の影響を受けているせいでしょうか。関西も、もっと元気を出さなければという思いを新たにした次第です。



写真-1 企業展示風景

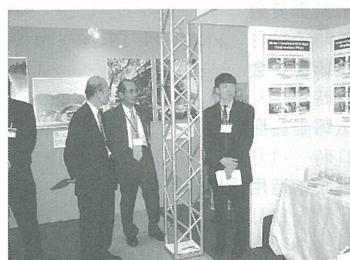


写真-2 JSCA賞展示コーナー

## 国際会議 「fib Osaka Congress 2002」 参加報告



株日建設計  
陶器浩一

10月13日から19日にかけて、大阪国際会議場にてfib Osaka Congress 2002が開催されました。fibは1998年にCEB(欧州国際コンクリート委員会)とFIP(国際プレストレストコンクリート連合)とが合併して発足したコンクリート技術に関する世界唯一の国際組織で、今回がその第1回の記念すべき大会にあたります。テーマは「21世紀のコンクリート構造」です。

全世界から1500人を超える参加者と700編近い論文発表などがあり、大変盛大な会議でした。大変大きな会議であり全体を総括することは不可能ですので、筆者の目から見たこの会議について報告します。私はこの大会のあるセッションの企画に携わって来た関係上、偏った報告になることをお許しください。

この会議はコンクリート技術に関する会議なのですが、技術のみにとどまらず

世界各国の文化、社会に触れることが出来たのが何より意義を感じました。

プレナリーセッション、プライマリーセッションでは、歴史家である Juko Ito 先生による建築文化の歴史的考察、照明デザイナーの Motoko Ishii 先生による Lighting Design を通じての Structure の表現、建築家である Hiroshi Naito 先生によるコンクリートという素材の表現とは、などコンクリートの文化を考える上で示唆に富む話を聞くことが出来、日本の文化を世界に発信するという意味でも意義があったと感じました。また、Werner Sobek 先生(ドイツ)による Arch-Neering という概念はこれからの技術者の歩む道を考える上で刺激になったし、Leonard F. Troyano 先生(イタリア)や Jiri Strasky 先生(チェコ)など著名な橋梁デザイナーの講演は、風景の中での Structure のあり方を考える上で大きな収穫でした。

私が関わったセッション[Aesthetics of Concrete Structure]では建築家や構造家、橋梁技術者や景観デザイナーなど多くの分野の人々に参加していただき、デザイン(Material, Structure, Form)を行なうにあたってのコンセプトは何か、構造物はその風景の中で何を表現しうるのか、

構造美とは何か、について議論を深めました。

セッションの最後に Alan Burden 先生の司会のもと、Mamoru Kawaguti(日本)、Mike Schlaich(ドイツ)、Enzo Siviero(イタリア)の3先生をパネラーとして、「環境・地域と構造デザイン」というテーマで議論を行なったのですが会場からの意見が非常に活発で、議論を聞いていてこのテーマには土木、建築、ランドスケープなどという垣根は不要だと改めて認識しました。

技術展示も世界から新しい技術が紹介され大変興味深かったのですが、私個人は時間の関係でゆっくり見ることが出来なかつたのが残念でした。

隣接するリーガロイヤルホテルで行われたウエルカムレセプション、バンケットでは大変大きな会場内に収まりきらない多くの参加者が盛大なパーティが行われました。旧交を温めておられる姿も多く見受けられ、私自身は多方面の方と交流を深めることができました。

IT革命の時代で情報伝達の手段も変わってきてますが、人と人が直にコミュニケーションすることの大切さを感じました。

## ●支部役員の選出について

関西支部事務局長 西村勝尚

2003年度より、理事は本部が実施する選挙によって選出されることになり、支部選出理事は支部長を兼務する事が原則となりました。従いまして支部会員の信任を得た人が間接的ですが支部長に就任する事になります。

一方、副支部長と支部幹事などの支部役員(10~15名)については、従前通り関西支部の規定により、支部総会において支部正会員の中から指名・承認された人が選出されることになっております。

この選出方法についてのご意見があれば、JSCA関西宛のEメールで送信されるようお願いします。

E-MAIL : jscaweb@kansai.email.ne.jp

## ●事務局だより

### ・支部役員会

日時 11月 8日 (金) 18:00~20:00

### ・事業委員会

日時 11月 1日 (金) 18:00~20:00

### ・技術委員会

日時 11月14日 (木) 18:00~20:00

### ・広報委員会

日時 1月15日 (水) 17:00~19:00

### ・建築構造用語集編集委員会

日時 11月21日 (木) 18:00~21:00

## 第38回 J S C A会成績表

2002年11月13日 晴  
於：泉南カンツリークラブ  
参加者：38人 \*印 初参加

順位	氏 名	OUT	IN	GROSS	HDC	NET
優勝	飯田 努	46	40	86	18	68
2	山田 祐治	47	48	95	21	74
3	橋詰 善光	45	50	95	21	74
4	多賀 謙蔵	51	51	102	28	74
5	平見 殖	46	45	91	16	75
6	廣瀬 聰	53	41	94	19	75
7	脇山 広三	56	51	107	31	76
8	丈野 栄三	47	47	94	16	78
9	米原 常夫	51	45	96	18	78
10	川野 弘二	48	49	97	18	79
11	青木 仁	42	47	89	9	80
12	篠原 光宏	55	46	101	21	80
13	仲 秀雄	56	44	100	19	81
14	馬瀬 芳知	47	42	89	7	82
15	日下部 弘	54	49	103	21	82
16	近藤 一雄	57	61	118	36	82
17	長谷川 熊	46	53	99	17	82
18	谷尾 俊弘	51	50	101	18	83
19	長田 秀二	54	54	108	25	83
20	飯田 和明	46	49	95	11	84
21	宮本 義博	46	53	99	15	84
22	後藤 文吉	55	51	106	21	85
23	河崎 四郎	49	44	93	8	85
24	小松原 操	50	52	102	17	85
25	*大須賀 仁一	53	53	106	21	85
26	松谷 修	54	52	106	20	86
27	北畠 憲雄	51	58	109	22	87
28	前野 浩平	58	55	113	25	88
29	仲 晃一	40	51	91	3	88
30	渡辺 効	58	49	107	18	89
31	山本 豊弘	54	44	98	9	89
32	奥 西 太子	51	55	106	15	91
33	長塩 優	62	57	119	25	94
34	*友田 民範	60	61	121	25	96
35	*村山 松二郎	58	59	117	20	97
36	*宮崎 正明	64	67	131	28	103
BB	藤田 忠正	74	58	132	28	104
BB	塙田 大二	66	81	147	36	111

ペスグロ：飯田(努)

ニヤピン：河崎＊2、飯田(努)、仲(秀)、川野＊2

ドラコン：シニヤ：丈野、馬瀬、渡辺＊2

ジュニア：(丈野)、広瀬、篠原、奥西

次回 H D C : 飯田(努) 12、山田19、橋詰20

G R O S S 平均 1 0 4 . 3

幹事 日下部記

### ・木構造分科会

日時 9月27日 (金) 18:30~21:00

議題 限界耐力計算事例の確認

### ・構造性能分科会

日時 11月7日 (木) 17:30~19:30

議題①性能項目及びそれからイメージできる諸問題、意見  
②J S C A規準について

### ・若手構造技術者の育成講座

日時 12月11日 (水) 9:30~17:30

場所 Y M C A会館

参加者 18名

### ・支部報

Structure Kansai No. 75号発行

### ・京滋会

日時 12月 6日 (金) 15:00~17:30

場所 学芸出版社 3階ホール

内容 講演会「鉄骨構造 — これから  
の課題」

講師 大阪大学 甲津 功夫 教授

### ・ゴルフ親睦会 別掲

### ・囲碁親睦会 別掲

### ・建築関連14団体会長・支部長ご餐会

日時：10月31日 (木) 11:30~13:30

場所：大阪ガスピル食堂

### ・建築関連14団体2003年新年交礼会

日時：1月6日 (月) 14:30~15:30

場所：マイドームおおさか3階

## 第17回 囲碁同好会

平成14年11月16日 (土)

於：囲碁サロン「刻」

参加者：17名

### Aクラス

優勝 河島 章男

準優勝 尾崎 忠義

3位 五藤 健三

敗者優勝 古田 正夫

### Bクラス

優勝 田丸 直次

準優勝 荒川 宗夫

3位 榎本 隆一

敗者優勝 佐々木 博司

## ●編集後記

今年の年末年始は、こよみ通りなら9連休。長い休みを取られて、十分にリフレッシュされた方も多いことと思います。

さて、今号では、支部の広報活動に役立てるために、会員の皆様のご意見をアンケートというかたちでお聞きしました。多くの貴重なご意見をいただき、今後の活動に大いに役立ててゆきたいと思っております。

今後とも、Structure-kansaiの内容等につきまして、どしどしご意見をお寄せ下さいますようお願いします。

(担当：黒木・二宮)

発行 (社) 日本建築構造技術者協会

関西支部事務局

〒 550-0003 大阪市西区京町堀 1 - 8 - 31

TEL 06-6446-6223 FAX 06-6446-6224